

山筆

第36号／2004年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：<http://www.tosako-kanto.org/>



平成16年度関東支部総会において講演される尾池和夫京都大学総長 (34回生)

性幻想論や博覧『狂気』の論客たち

中城 正堯 (30回生)

このところ歌麿や広重が子どもの遊び学ぶ姿を描いた「子ども浮世絵」の巡回展と、各地の城郭で開く「土曜お城見学会」のため、全国を駆け巡っている。その旅先でのこと、山陰のホテルで地方紙の文化欄を開くと、「少女への『性幻想』が氾濫」という見出しで、男たちのロリコン妄想による事件多発の背景が論じてある。鋭くメディアを批判する筆者は「大阪府立大教授森岡正博、高知生まれ、生命学専攻」とある。後輩ではないかと思っただけで帰宅後に名簿を見ると、やはり52回生だ。

最近の論壇で目覚ましい活躍をしているのは42回生の高山宏・東京都立大教授で、専門は英文学だが「博覧『狂気』の学魔」とも呼ばれている。『眼の世界劇場』や『大江戸視覚革命』などの翻訳者としては認識していたが、『黒に染める』や『奇想の饗宴』『表象の芸術工学』を書き、ポストモダンやマネリスムを語る売れっ子評論家で、しかも後輩とは最近まで全く気がつかなかった。

公文俊平 (28回) 竹内靖雄 (29回) 野田正彰 (37回) 塩田潮 (40回) などの各氏に続き、「土佐派」の論客が輩出してきているのは嬉しい限りである。

ところで、この夏には東京原宿の「太田記念美術館」で、「子ども浮世絵展」が開かれる。高山宏さんの江戸視覚文化論でもひとときながら、ぜひご覧いただきたい。

(編集部註：「子ども浮世絵展」の案内は10頁に掲載されています。)

平成16年関東支部総会・大懇親会

平成16年度千代田中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は5月30日(日)オリンピック記念青少年総合センター「国際交流棟」に於いて開催されました。二八〇名余の同窓生が代々木の森に参集し盛大に挙行されました。母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。



池上校長の学事報告

今年の記念講演は尾池和夫京都大学総長(34回)の「これから50年、西日本は地震活動期。とくに南海地震について」と題する講演でした。土佐に関係の深い南海地震の予測とその根拠についての地震学の権威によるお話を同窓生一同熱心に聴講いたしました。



尾池京大総長の講演

今年は4の回生(24、34、44、54、64、74)の同窓諸



氏による総会・懇親会の運営がなされました。懇親会では、アトラクションとして、74回生福留史紘さん率いる弦楽四重奏団の素晴らしい演奏があり、その後、がらっと雰囲気を変えて、はし拳コーナーで、はし拳大会があり、会場全体を大いに沸かししました。

大懇親会



司会は64回生武内有子さん



泉谷支部長の開宴の挨拶



壇上では新卒業生の79回生が紹介された



乾杯は24回生 浜田憲三郎氏



「3本!」



「いらっしやい!」



松歌執事のフナーリ



4の回生から5の回生への幹事引継ぎ式



土佐中・高同窓会関東支部 支部長挨拶 泉谷良彦 (29回生)

29回生の泉谷良彦と申します。今回計らずも支部長を拝命しました。

諸先輩が大勢おられる中で御指名を受けましたことは、身に余る光栄でありますと共にまたその重責に身の引き締まる思いをしております。

昨年でしたか、16回生の吉澤先輩が会長をされている筆山会（これは同窓の有志が集まり放談をする昼食会ですが）の席上、宮地前支部長から突然「次の支部長は泉谷にするぞ」と宣告がありました。

いきなりの直球で受けるのが精一杯、サッカーなら蹴り返すことも出来るかと思いましたが、困ったことになったと言うのが実感であります。

と申しますのも私は社会人となつて40数年、競争に明け暮れた日々を送った、単なるサラリーマンであります。片や教育の何たるかを全国に号令する元文部省事務次官殿となれば、その後任がやりにくいことは当然と思うからであります。諸先輩のお薦めもあり、世の風潮として少し若返り、次の世代に引き継ぐ意味もあるかと思ひお引き受けした次第であります。一般に社

長就任の時には「前任者の路線を踏襲し、ますます発展に努力します」等と申しますが、それは望むべくもありません。皆様方の御協力を得て楽しい雰囲気の方に致したいと思ひます。

同窓会とは何か等と大袈裟に構える気持ちはありませんが、諸先輩の経歴と歴史に触れ、同期の者とは励まし合い、後輩には道徳を傾け、信頼し



合つて親睦の輪を広めると言うような事でしょう。

これから母校創立百周年の記念事業が色々企画されて御案内されるでしょうが、その一つに我々に与えられる大きな課題があります。池上校長より詳細のお話があると思いますが、校舎の建て替え問題です。私の入学時は、池にあった海軍の兵舎を先輩諸氏が勤労奉仕で運び入れて建てたものと伺いました。

そこが学び舎でしたが、天井は無く、竹ひしに障子を貼ったもので、伊吾の声は外に響き渡っていたと思います。ここから多士済々の人物が世界各地で活躍していることを考えると、今の校舎で充分と言えるところですが、難しい問題が生じました。南海地震が予測される状況の中で耐震構造上不適格と言う指摘を受けたのです。百年記念事業を待たず、今すぐに取り掛かる必要に迫られています。

建設資金の予算は約50億円と伺っておりますが、その20%位を同窓会の皆様の御芳志を仰ぐことになろうかと思ひます。卒業生は現在1万7千人、その内、関東支部で把握している人員が約3千人、想定ですが在京の人員は5千人を越えると思われまます。在髙の同窓会もこれから強化されると期待しておりますが、どうしても経済基盤の厚い首都圏で活躍されている皆様方に一奮発をお願いしなければなりません。景気は未だ良くありませんが、恐妻家は奥様に最敬礼を、ハチキンは意地を見せて頂きたいとお願いする次第です。

恐縮ながら少し私の自己紹介をさせて頂きます。戦後のエネルギーが石炭から石油に転換する昭和の30年代、三菱石油に就職し、経済発展の礎となつて努力して参りました。日本のエネルギーの60%を供給しても殆どがメジャーに握られていて現実に憂慮して少しでも対抗出来る強い会社をと思い、社長の方に日本石油との合併を果たしました。日石三菱の会長を最後に二年前に引退し、現在無職であります。

24回生の大原博士が言われた「笑つて青山を仰げば、山また笑う。君が笑えば皆が笑う」と言う気持ちで、また若人には「若き日にこそ薔薇を摘め」と申上げて、お互いを信頼し意義のある同窓会に育てて参りたいと思ひます。何卒宜しく御協力を願ひして御挨拶と致します。

平成16年5月30日の関東支部総会において、17年間支部長として、関東支部発展につくされた宮地貫一氏（21回）の後任として泉谷良彦氏（29回）が新たに関東支部長に選任されました。

[母校及び同窓会本部・各支部一覧表]

土佐中学・高等学校／土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.inforvoma.or.jp/tosabog/>
土佐中学・高等学校同窓会香川支部 事務局長 武山正人 (担当：大石浩) 〒761-0113 高松市屋島西町1850-1 四国電力(株)
(TEL)070-5750-2120 (FAX)087-841-7809 (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp
土佐中学・高等学校同窓会広島支部 事務局長 山崎迪子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210
(TEL)082-227-2656 (FAX)082-227-2656 (E-mail) myamazaki@d02.enjoy.ne.jp (HP)
土佐中学・高等学校同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内
(TEL)090-1073-7822 (E-mail) harada73@hotmail.com (HP) <http://www.tosa-ko.org/kansai/>
土佐中学・高等学校同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山パルク B-301
(TEL)052-837-5834 (FAX)***** (E-mail) jjingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP) <http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>
土佐中学・高等学校同窓会関東支部 事務局長 金澤由里 〒251-0875 藤沢市本藤沢7-3-7 山中和正 (24回) 気付
(TEL)0466-82-2445 (FAX)0466-82-2445 (E-mail) tosako-kantoshibu@mail.ne.jp

関東支部活動報告

事務局長 金澤由里 (55 回生)

関東支部では1月31日(土)

学年幹事会を開催致しました。
5月30日(日)の支部総会
において役員改選が行われ、
17年にわたり支部長としてご
活躍いただいた宮地貫一(21
回)先輩が退任して顧問に就
任され、新しく泉谷良彦(29
回)先輩が支部長に就任され
ることになりました。また、
副幹事長には市原正人(71回)

総会、懇親会の準備に関し
ましては、事務局の至らなさ
にも関わらず、各担当学年の
皆さまが、突然降って沸いた
任務に、ボランティアで精を
出して下さりますことに感謝
し、さまざまな分野での皆様
の才能、人間性に感動させて
いただいております。事務局
長退任挨拶では、これら一人
一人の方のお名前を言って感
謝の言葉を申し述べたいくら
いです。今年も担当学年の方々
が大変頑張りました。お楽し
みだけでしたでしょうか。
最後に、今年は3年に一度
の関東支部名簿作成の予定と
なっております。個人データ
の取扱について非常に気を使
わなければならない時代では
ありますが、同窓会活動に名
簿の存在、更新作業は欠かせ
ません。至らないこともある
とは思いますが、細心の注意
で、良い名簿ができるよう名
簿担当幹事の川上司(52回)

とのおんびりしておりましたが、
二〇〇五年の総会、懇親会は
来年となってしまいました
(トホホ)。55回生の皆さま、
どうぞ来年の総会、懇親会に
はご参加下さい。25、35、45
回生、特に65回、75回生の皆
さま、よろしくお願い致しま
す。

支部長
泉谷良彦(29回) 新任

幹事長

市川直介(53回)

副幹事長

山中和正(24回)

佐々木泰子(33回)

鶴和千秋(41回)

二宮 潔(49回)

上野典子(51回)

廣瀬裕子(60回)

市原正人(71回)

会計監査

吉井雄二(49回)

森木隆裕(59回)

事務局長兼会計

金澤由里(55回)

常任幹事

名簿委員長

川上 司(52回)

筆山編集長

西岡恒憲(41回)

HP編集長

筒井康賢(41回)

総会世話役

西森さと(57回)

顧問

曾和純一(16回)

宮地貫一(21回)

山本高敬(25回)

浅井伴泰(30回)

溝渕真清(32回)

大石和男(40回)

岩村康生(41回)

〔小松岳志会計(70回)は留

母校だより

学校長 池上武雄(28回生)

向夏の候、関東支部の皆様にはますますお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は学校運営につきまして格別のご支援を賜っており、ますことを有難く御礼申し上げます。とりわけ毎年実施いたしております高1生の修学旅行でのコース別研修には、関東地区の諸先輩からはご多用にもかかわらず本当に親身のお世話をいただき深く感謝申し上げます。本年はスキー研修がなくなりましたので日程が秋に変更され、11月24日(水)を予定しております。大変ご面倒をお掛けいたしますが何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

さて、本年度の大学入試結果につきましては、昨年の取り組みの反省をもとにセンター試験に臨み、続く大学入試でもまずまずの成績を上げることが出来ました。まず現役生の合格率は70・6%(昨年65・6%)でした。今年の特徴は、一、私立大の合格者が増

加しました。特に関西地区の難関校「関関同立」で一五六名が合格(昨年は74名増)しました。これは国公立大との併願でセンター試験利用の入試方法や、地方各地での入試開催等受験し易い条件が整った上に経済的要因と相俟つてのことと考えられます。二、国公立難関の東大、京大、阪大については、現役を中心にますますの成績でした。私の申し上げている「東大、京大2桁の合格」という目標には届きませんでした。東大7(現4)京大12(現7)阪大11(現7)と頑張ってくれました。また旧帝大7校に東工、一橋、神戸を加えた難関10大学でも44名が合格しました。三、国公立大医学部医学科では、近年にない京大で3名(現2)が合格するなど26名(現11)が、私立大医学部を加えると32名が合格し、「医学部に強い土佐」の評判が定着しつつあります。

これも昨年9月、東大佐々木毅総長に力強い激励のご講演をいただいたことが大きな力となったものと感謝申し上げます。お陰様で段々と土佐が元気になりつつあるように感じ、この元気



県体の壮行式

を今後とも持続向上させてゆきたいものと願っております。

次に本年の高校総体は、水泳を除いて県大会が5月22日(24日)の間開催されました。

結果は、よく健闘するもあと一步という成績に終わりました。

ただ、県体への参加人員は、県下50校中学校が最多二九五名(男子二〇七、女子88)でした。団体の優勝は5年振りの登山部だけに止まりましたが、準優勝には、男子ハンドボール、男子サッカー、女子テニスが入賞しました。また個人では、弓道男子、自転車2種目(内一種目は団体)で優勝いたしました。

島根県で開催される今年の高校インターハイでの出場選手の一層の健闘を期待して

ります。県体での高校野球は、土佐4対0高知、準決勝土佐0対3明徳義塾と少しながら明徳義塾に近づくことができたように感じております。

同窓会の慶事では春の叙勲等で、秋田清夫氏(27回生)が瑞宝重光章を、石田正一郎氏(27回生)が瑞宝小授章を、田中誠二郎氏(30回生)が黄綬褒章を受章されました。心からお祝い申し上げます。心にも益々のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。

校内の主な人事異動では、森本堯士教頭先生がご退職され、新しく三浦浩二先生が教頭に就任されました。

本校の当面最大の課題は、校舎の改築ですが、去る3月12日開催の理事会で、校舎の全面改築が承認されました。

建設場所は現在地高知市塩屋崎町に、設計業者は、(株)建築設計と現代建築計画事務所(代表者窪田謙作氏46回生)のジョイントで、設計工事日程としては、設計に約一カ年、建築工事に約二カ年半が予定され完工予定として平成19年末頃の見込みです。建築資金調達についての募金活動は、校舎建築募金委員会を近日中に立ち上げる予定で、委員に

は、宇田理事長、宮地同窓会会長、国見振興会会長を始めとしてそれぞれ同窓会、振興会、学校からの委員で構成された三位一体の委員会で募金活動を強力に推進して参る予定です。追って同窓生の皆様に募金ご協力をお願いを申し上げますので何卒よろしくお願いいたします。

最後に会員の皆様のご健勝ご活躍と関東支部のますますのご発展を祈念申し上げます。報告とさせていただきます。

本部だより

会計 千頭 裕(58回生)

「とでん」の愛称で皆様ご存じの電車が、今年で開通百周年(路面電車最長老)、「ピカソ好き!」というCM効果か県立美術館に9万7千

人の入場者と、高知はにぎわいを感じ、母校においても「県大医部」に3名(計12名)、東大総長室に、入学式の日(7名)ご挨拶に……(写真等詳細はHPをご覧ください)

等々、今年の受験生達の進路情報が入って来るともううれしい春でした。

さて、恒例の同窓会総会で

すが、本年は開催場所を母校で行います。「やっばり、土佐(校)は、えいじゃあ!」と、門をくぐれば思っているような企画を考えています。8月14日(土)を、楽しみにして下さい。

新校舎着工に向けて設計経過は、「新校舎は、こうしたい」ということを学習センター・教員関係諸室群・教室群・体育系施設群・共同生活空間等の各テーマにわけて、母校教職員の方々が検討作業中です。

本会も学校・振興会と連携して、建築資金面でのバックアップ体制の募金委員会を発足いたしました。皆様方のお手元に詳細情報が届きましたら、その節には、何卒、ご協力の程お願いいたします。

本部のホームページは、皆様により親しんで頂けるようアドレスを変更(作業中)し、tosablog.com(とさオービーオージードットコム)内容も充実させていきたいと思っています。

会員の皆様の交流が一層盛んになることを願い、個人情報取扱いは充分配慮したかたちの会員名簿作成のための委員会も近く発足を予定し

ております。

関東支部の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念申し上げます。本部だよりとさせていただきます。

東海支部だより

色々あった総会

前事務局長 南毅一(37回生)

盛りだくさんであった。

(1)「ガーナでよさこい」のVTRを流す。スゴイ・・

(2) 開会

(3) 前々支部長の挨拶(支部長欠席。前支部長は日付間違による遅刻)

(4) 池上校長の学校報告。甲子園の話はナシ。

(5) 本部顧問会長の挨拶。寄附を頑張ろうとのこと。

(6) 支部会計・事業報告。残金約17万円ナリ。

(7) 支部新役員の紹介を前幹事長竹原泰明より行う。

幹事長 村山文世(41回)

副幹事長 天造豊彦(52回)

事務局長 神宮崇恵子(44回)

(8) 土佐高同窓会HPの紹介を筒井慶貴氏(41回)がユーモアたっぷり。強烈なオチ付きで行う。

(9) 中部国際空港「セントレア」の構想を営業部長の尾

頭嘉明氏が講演。氏は東海支部久保地支部長のトヨタ時代の部下とのこと。

(10) やつとの乾杯。開宴となった。ここ迄、約1時間半、飲まず、食わずでノドはカラカラ。

(11) 陶芸家の38回生井上健郎氏の作陶展のPR。何人来るか。

(12) 「わかしゅち」編集長の内田順子氏(35回)が随筆集「私のヤケアトロジー」を発行。そのPRと即売を行う。何冊が売れた。

(13) ガーナ大使浅井和子氏(35回)の夫君である浅井伴泰氏(30回)の「ガーナでよさこい」の顛末を伺う。髭の風貌がアフリカの野性味をおびる。



(14) 突然、市商の柳井校長が来訪。池上校長とガッチリ握手(写真)。今夏こそ甲子園に先に行くとのこと。本当・・・？

(15) 飛び入りで、高知とこの縁のある演歌歌手清水たま希さんが2曲歌ってくれた(写真)。市商の同窓会にまねかれてのついでとか・・・。テープが何本か売れたと喜んでいました。

(16) 等々、忙しく終る。最後に天造新副幹事長のエールで校歌熱唱。

(17) お土産は19回窪田善一先生の「小夏」であった。持って帰った。

関東支部の皆様。小生南毅一(37回)は東海支部事務局長の役割を新たに神宮美恵子氏(44回)にバトンタッチします。13年ほどやりました。歴代、東海支部の事務局長は美男美女がやることになって

おりましたので丁度ポツチリやと思っています。永年のご支援ありがとうございます。

関西支部だより

土佐中・高等学校同窓会関西支部総会に出席して

棚倉 悠平(72回生)

二〇〇四年度の関西支部総会並びに懇親会が1月24日(土)、京都ホテルオークラにて盛大に開催されました。

私は高校を卒業して今年で8年目になりますが、母校同窓会の総会、懇親会への出席は今回が初めての事でした。

会場は久しぶりの再会を懐かしむ土佐弁があらちこちらで飛び交い、開宴時間の17時を待たずして一三〇名余りの同窓生の熱気がいっぱいになりました。実家が大阪の私は卒業後、土佐弁に触れる機会は皆無に等しく、久しぶりに聞く土佐弁はどこか新鮮で、部活に勉強？に励んでいた高校時代の事を懐かしく思い出しました。

また、当日は一三〇名を越える同窓生だけでなく母校から池上校長先生をはじめ小村先生、福留先生、更に同窓会

本部、各支部からも多数のご来賓の方に遠方よりお越し頂いており、改めて土佐高ネットワークの強さと広大さに驚きました。

さて、会は同窓生全員による校歌斉唱から始まりました。卒業から8年経った今も歌詞カードを見ずに校歌を歌い切れた事が少し嬉しく、同時に高校時代の思い出の深さを実感しました。その後の懇親会では、応援歌斉唱、学生による「よさこい踊り」の披露、同窓生全員で踊る「よさこい鳴子踊り」等、懐かしいアトラクションが目白押しで、総会、懇親会とあつと言う間に終わってしまいました。



初めて参加した同窓会でしたが、高校時代にお世話になった先生方、8年振りに会う同級生、はじめてお話しする諸先輩方、後輩達ととても楽しい時間を過ごす事ができました。

また、今回は僭越ながら司会も務めさせて頂き、個人的にも大変良い経験もする事ができました。これからもこのような会には積極的に参加し、私自身の土佐高ネットワークも広げていきたいと思っています。

来年二〇〇五年度の関西支部総会、懇親会は1月に開催との事です。来年もまた、同窓生の皆さんと高校時代を思い出し、一緒に美味しいお酒を味わいたいと思います。

広島支部だより

幹事 門田佳代(49回生)

関東支部の皆様、こんにちは。昨年の秋の広島支部総会については、前回の筆山で報告済みということで、私事ながら、自分の仕事についてお話ししようかと思います。

今や、破産寸前の広島市がまた、財政豊かだった頃、青少年の健全育成のため、児童福祉課の管轄として、市内の

小学校区全区に一つずつ児童館なるものを建設しようという計画が立てられました。共働きの子供を預かる留守家庭

子ども会(学童保育)をも児童館に吸収し、なおかつ、家庭に帰った子ども達に遊び場を提供したり、遊びの指導をする役目も担わせよう、その指導には、子育ての一段落した保育士、幼稚園教諭、教員の資格のある35歳以上の女性を充てて、女性の再就職も図ろう、という何とも一石何鳥も狙うのもくろみ。30年の歳月を経て、ほぼ達成し、今日に至っています。他県では民営、有料の学童保育も広島では無料。指導員の方も身分は一応一年雇用の嘱託ではあるけれど、組合もあり、年休も、週休も看護休暇も保障され、65歳まで働ける。資格を持つ主婦には万々歳の就職先です。この願ってもない仕事に私も7年前に何とか就くことができました。

初めは、お利口さんに躰けるのが仕事と思っていた私。しかし、学校でのレッテルから解放され思い切り地を出して遊ぶ子ども達の屈託のない笑顔に触れるうち、「みんな違って、みんないい!」と思

うようになりました。指導員はその良さを引き出すチャンスを与えるのが仕事です。

お手玉、けん玉。囲碁に将棋、お話し会に、折り紙、切り絵工作。館庭で育てた芋ほり、西瓜割り、大豆を豆腐に。地域の田植えに参加したり、かかし作りに、稲刈り。地域のお年寄りやボランティアの手を借りながら、少しでも多くの体験をと子どもたちをけしかけます。

うまくいきそうにないことには見向きもしなかった子ども達がいつしか、とりあえず、やってみようとし始めた時、できるようなったことを得意げに見せに來た時、疲れた顔でやってきたはずの中学生が楽しそうに小学生の茶髪の手を汗一杯かきながら肩車してやってくる姿を見た時、何ともいえない感動で、胸がいっぱいになります。小さな子から大きな子まで、夢中になって遊ぶこの姿こそ本来の子供の姿でしょう。

幼い頃思い切り遊んだ経験を持つ人は優秀で人付き合いにも上手だとか。そういえば、人望厚い我が広島支部の沖支

部長。脳神経外科のお医者様でありながら、二年前本部総会参加の折り、一緒に立ち寄った牧野植物園で、飛び交うトンボの名前を全部覚えてくださいました。子供の頃は

四万十川の川岸をトンボを追いかけて過ごされたそうです。来月には、来る11月6日の広島支部総会に向けて役員会

があります。広島支部名物参加者全員の自己紹介。今年は、小さい頃、いかに勉強したかではなく、いかに遊んだかをテーマに話していただくことを提案してみましよう。これについて、我こそはと思われる方、どうぞ、話しに來られませんか? お待ちしています。

香川支部だより

幹事 萩野 友康(44回生)

関東支部の皆様、こんにちは。香川支部の総会は七夕の日に近い土曜日に行います。

今年は7月3日(土)に開催します。この時期は高校野球の予選が近いせいか今年はどうでよの挨拶で始まり、その後はただひたすら杯を空け、ちゅうちゅう、があがあ、き



いきい、ここは高知かと見間違うほど真ににぎやかな集団となります。

さて、今回は私の近況を掲載せよとの外野席がうるさいのでちくと述べさせていただきます。

昨年10月、野球のワールドカップに全日本代表チームの投手コーチとして参加しました。参加国16カ国、キューバ(ハバナ他)、期間は10月12

日~25日。成績は8年ぶり(3大会ぶり)の銅メダルを獲得できました。予選リーグ7戦全勝でBグループ1位通過(2位アメリカ、3位パナマ、4位ブラジル)、決勝トーナメント準々決勝対韓国(Aグループ4位) 2対0勝利、準決勝対パナマ1対4負け、3位決定戦対台湾7対3勝利。優勝は地元キューバ。

選手資格はプロ、アマ参加自由。日本は社会人選手、他国はアメリカ、韓国などは混合チームでした。

Bグループの試合は魚塚はキューバの第二の都市サンチャゴ・デ・クレーバ。首都ハバナから飛行機で約2時間、風光明媚な港灣都市、10月は雨季で雷雨が多い。気温は日本の9月中旬レベルで昼間は日差しがきつく肌痛いほど、日陰と夜間は涼しく快適だが雷雨時は蒸す感じとなる。新築の高級ホテルで食事は朝夕毎食バイキング(品数豊富)で結構食べられた。特に果物(グアバ、オレンジ、パイア)とパン、コーヒーがおいしくあきなかった。球場は内野も芝生(ベント芝のラフ状態)、びっくりしたのは外野のフェー

（20日まで）7試合（休み2日）
 全てナイト（20時開始）で
 就寝は1時から2時位。朝9
 時に起き、散歩やテレビ（ア
 メリカの衛星放送他）でくつ
 るぎ、17時出発が定番。

21日、いよいよ決勝トーナ
 メント（会場はハバナ）へと
 意気込むも飛行機13時出発予
 定を当日朝急に23時に変更さ
 れ一同腰砕けとなる。いらい
 らとへとへとでハバナのホテル
 に入り就寝したのが3時で
 した。これでアメリカは台湾

（Aグループはハバナ会場）
 とのゲーム（14時開始）に負
 けた（キューバの陰謀？）。
 20時開始で余裕の日本は隣の
 都市マタンサス（バスで2時
 間）で韓国と対戦し勝利となっ

た。ところがここに落とし穴
 が待ち構えていた。勝利チー
 ムの記者会見とドーピング検
 査でバスが動けず、ホテルに
 帰り就寝したのが3時となっ

た。準決勝は14時試合開始な
 ので10時にホテル発となる。
 相手は予選リーグで大勝した

パナマで少し余裕があった。
 ところがゲームが始まると選
 手の動きが鈍い。疲労と暑さ

（昼間のゲームは初めて）と
 プレッシャーの三重苦で金縛
 り状態となり1対4で負けた。

3位決定戦は台湾となった。
 私の秘策「投手の逆転起用」
 の登場する場面がきた。日本
 を発つ前はスタッフ一同絶対
 ありえないと馬鹿にした起用
 法である。疲労の少ないリリー
 フ投手を先発させ逆に回して
 いく秘策です。ゲームは松井
 （リリーフ専門）↓谷村
 （セットアップ）↓野間
 口（先発）の好投で7対3の
 勝利とあいなった。

全選手がマウンドに駆け寄
 り抱き合い歓喜しているのを見
 ていると安堵感で涙が自然
 に出てきた。さらに嬉しかった
 ことはわが愛妻がキューバ
 に応援にきたこと。この瞬間
 にこの球場のスタンドにいて
 くれたことが一番の喜びとな
 りました。歓喜の胸上げや閉
 会式、ホテルでの祝杯と楽し
 いひと時を経て翌日に帰国し
 ました。

日の丸のプレッシャーとの
 戦い、暑さ、疲労、食事、状
 況変化への対応力、キメの細
 かな気配りの必要性など貴重
 な経験をさせてくれた会社、
 野球界に感謝の念で一杯とな
 りました。

今年はオランダのハーレム
 市で開催される国際大会の監
 督に就任しました。参加国は

6カ国（オランダ、イタリア、
 キューバ、アメリカ、台湾
 日本）。期間は7月23日〜8
 月1日、1回戦総当たりリーグ
 戦で1位と2位で優勝戦を行
 う。オランダ、イタリア、キュー
 バは五輪代表チームが参加す
 るとのこと。日本は社会人選
 手が参加します。W杯よりも
 タフなゲームとなることしょ
 う。参加選手は視察と強化合
 宿を経て7月上旬に発表しま
 す。東京で直前合宿（7/16）
 とオープン戦（7/18対キュー
 バ、7/19対学生選抜）を行
 い7/21出発です。今年は愛
 妻と愛娘が応援にくるとのこ
 とです。優勝目指してがんば
 ります。

お知らせ

ガーナ・ツアー
 参加者募集中!!

ブラック・アフリカのリス
 ムによさこいからむ「ガー
 ナでよさこい」祭りを見学し
 ませんか?
 大会名誉会長

浅井和子大使（35回生）
 （お客様熱烈歓迎の由）
 日程 10月5〜12日（予定）
 お問合せ先
 「ガーナでよさこい支援会」

公文敏雄

TEL&FAX 03-3365-0768



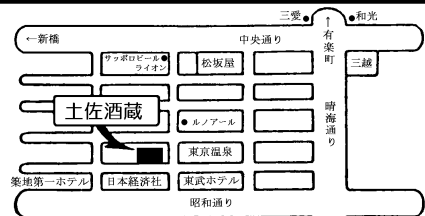
57回生勝木田奈子さんの洋菓子屋さん



パティスリー・プロポジション

780-0822
 高知市はりまや町
 2丁目11-1
 OPEN
 10:00am〜8:00pm
 火曜日定休
 phone & fax
 088-882-3045
 http://www.vertvert.com
 はりまや横より徒歩2分

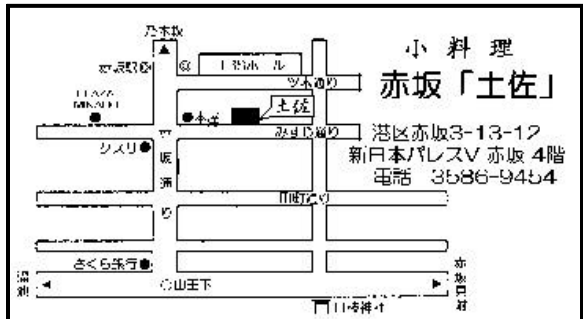
ヴェール ヴェール



季節のふるさとの味

土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
 電3545-3855 銀座第一ホテル通り



本年度東大合格者7名が東大総長室を訪問

4月12日 東京大学の入学式が挙行されました。この入学式後、本校からの7名の新入学生は、保護者とともに総長室を訪ねました。

これは、昨年夏に佐々木毅総長が本校に講演に来られた際に、生徒たちに「入学式の後、総長室に来てください」とよびかけられたことを受けて、本校卒業生で東大副理事の片山直久さん(38回生)のご尽力もあり、実現の運びとなりました。

減多に入る機会のない総長室に入ることのできた卒業生たちは、緊張しながらも晴れやかな表情で佐々木総長と懇談しました。

〔土佐高ホームページ・ニュースのページより〕

「総長室に行って」

東京大学文科三類二年

町田三成(78回生)



考えてみれば土佐高にいた時も校長室に入ったことはな

かったので、総長室がどんな所がよく分からなかったが、とりあえず高そうな美術品やらトロフィーやらがずらっと並んでいるような豪華絢爛なイメージがあった。しかし実際総長室に入ってみると意外とシンプルな造りで質素な感じの壺や絵が程よく配置されており、そして部屋の中には彫刻のごとく厳めしい顔立ちをした紳士が一人立っていた。

東大の佐々木総長である。その鋭い眼光は独特の威圧感を放っており、小心者の僕は「ひえ」とその場でひれ伏してしまいそうなく気持ちになった。

総長は黒光りする椅子にゆったりと腰掛けると、東大でどう学んでゆけばよいかな等々いろんな事を語ってくださいったのだが、その姿は「総長」というよりも「皇帝」といった方がふさわしい気がした。

少々大げさな気もするが、一年間浪人して受けた東大の試験も思うようにできず、私立の大学へ行く決心を固めていた僕にとって自分が東大に受かったことは信じられないことであり、さらにその東大の頂点に立つ佐々木総長と至

近距離で向かい合っているという状況はこの上なく緊張するものだったのである。

総長の話が一段落すると皆で写真を撮り、一人一人総長と握手を交わして総長室を後にした。僕は緊張しっぱなしでいたため、正直総長のありがたいお言葉もほとんど覚えていなかった。ただ、総長が放っていた独特の存在感だけは強烈に印象に残っており、将来あれぐらいのオーラを出せるようなビッグな人物になればいいなと思った。土佐高の校歌に「冠する土佐の名に叶え」という歌詞があるのだが、その言葉を胸にこれからも精進していきたい、と思いつつもサークルもバイトもやらず怠惰な日々を送り、東京来て体重が3キロ増量したことに焦りを感じている今日この頃であります。

「東京大学総長室を訪問して」

東京大学文科三類二年

入交亜樹(79回生)



「本当にこの日を迎えられ

たんだなあ・・・」武道館での盛大な入学式を終えて、私はそう感じていました。

佐々木総長が土佐高校へ講演において下さり、「今年土佐高校から東大へ合格された方は特別に総長室へご招待しましょう。」とおっしゃった時の胸の高鳴りを、私は今でも忘れる事ができません。東京大学合格への意欲が一層高まったものでした。しかもその上、後日総長からエールのこもった激励のお手紙をいただき、更に感動しました。

さて入学式後、赤門に全員が集合し、安田講堂前で記念撮影後、片山さんのご案内で講堂内の総長室へ案内されました。総長室は荘厳で美しく、入室前から全員が緊張してい



ました。総長はとても気さくな方で、これからの大学生活について、様々なアドバイスを身振り手振りやユーモアを交えながら私たちの目をしっかりと見て熱く語ってくださいました。「皆さんにやって欲しいのは卓越性の追求です。東京大学には自分が到底かなわない人間やすごい人間がたくさんいるはずだ。そういう人に多く出会って、卓越性の追求の難しさを実感して欲しい。東京大学、特に駒場での二年間は文系が理系分野の学問をやれるしその逆もまた可能であるという珍しい大学だから、学問の世界を泳ぎ回って色々な分野に精通してほしい。」総長は主にこのようなお話をして下さいました。そして最後に「がっちり」と全員で握手までして下さい、感動で胸が熱くなりました。

今回の体験そして総長のお言葉は、おそらくこれからの大学生活において私たち7人の大きな励みになるに違いありません。

めったにない経験をさせていただき佐々木総長にも、そして土佐高校の先生方にも本当に感謝しています。ありがとうございました。



私が社会人になって間もなく、会社の人事部から「新人社員教育として、洋食のテーブルマナーを教えるから、某月某日昼食時某所に集まるように」という指示が来た。講師は帝国ホテル給仕長とかである。「そんな堅苦しいところは行きたくない」という友人もいたが、私はめったに食することが出来ない帝国ホテルの高級料理の味見が出来ると思って、喜んで参加した。



50年も前のことである。

給仕長は謹厳ではあるが、くだけた感じの人だった。話も分かりやすい。聞けば業界では名士だそうである。彼は、「テーブル・マナーを覚えるのは簡単なことです。周囲に不快感を与えなければいいんです」と説明した。

ところがこの一言が重い。まず、周囲とは同席する仲間だけでなく、別のテーブルにいる知らない客、さらに給仕やレストランの支配人にまで及ぶ。たとえば、席に着くなりナプキンを膝に置くのは無作法である。給仕に対し、「早く食べ物を持って来い」と督促しているからである。

同じテーブルの人も、国により人により、習慣も違えば価値観も違う。例えば日本では、左手で食器を持ったり抑えたりして箸を動かすが、エジプトでは左手を食卓上へ出してはいけない。日本では、食器をひっくり返しそうであるという不安感を他人に与えないためであり、エジプトでは左手は不浄だからである。

こう考えると、「マナー」とは他人の気持ちを考えて行動すること、「気配り」「優しさ」とは同義語である

ことが分かる。

私は外国や日本の会社と多くの折衝ごとをやってきた。技術提携もあり、共同作業もあり、システム設計の技術論議もやった。その経験から言くと、厳しい条件の駆け引きをやる前にいい人間関係を構築したほうがいい。欧米流の折衝は、はじめに双方が自

スマートな
二十四回生 山中和正
いごっそう

男は優しくなければ生きていけない

優しくなければ生きていく資格はない』である。

〔写真の説明〕

42年前、技術提携の準備のため、単身、海外出張を命じられた。小生32歳。(グラントキヤニオンで)

いごっそうの一言

池上校長が校内で挨拶の推進運動を推し進めておられる。朝、校内で会ったら相手が誰であれ、「おはよう」と声を掛け合おうというものである。相手の名前が分からなくてもいい。これがマナー運動の入り口である。とてもいいことだと思ふ。

はじめは何となく気後れがしてなかなか言えないが、なればスムーズに言葉が出るようになる。そしてだんだん人の名前も覚え、気配りも出来るようになってくる。

私の住んでいる地区の自治会でも、同様の運動が起きている。警察から、「住民が声を掛け合う地区には、空巣が入らない」といわれたからである。テレビでもそんなことを言っていた。ビジネスから防犯まで、『優しさ』にはご利益(こりやく)がある。

■展覧会案内

遊べや遊べ！子ども
浮世絵展

— 歌麿や広重も描いた江戸の千宝 —

会場

東京原宿 太田記念美術館
03・3403・0880

会期 前期 7月1日—25日
後期 8月1日—25日

お悔やみ申し上げます

18回 武市 橋夫 2004/3

TONTON カラオケ・スナック

幸田 みどり
(土佐女子出身)

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F
TEL 3205-3177 (西武新宿線北口前)

ふるさとへの手紙 (三)

慶應義塾大学三年 趙 詣 (77回生)

土佐高を卒業し、大学に進学してから早くも二年と半年が経とうとしている。私は中学三年の時に土佐中に編入したのだが、それ以前は東京の学校に通っていたので、当初から「標準語」という言葉の壁はなかった。しかし、私は「大学とはどのような場所であるのか」ということを考えるべきなのかな」ということがわからず、目標もなくただ流されるまま学生生活を過ごしていた。

そんな私でも土佐高のOBの方々と友人たちとの交流に



ゼミの仲間と。後列左から5人目

は積極的に参加していた。特に、同級の友人たちとは定期的に集まり、昔の思い出話や大学生活の話、あるいは将来の話について語り合っていた。そして、私はこれらの交流を通して将来のことを意識するようになり、明確な目標を立てるようになったのである。私は何かをやめた物が晴れた気になり、早速、大学二年生の時にその目標への計画を実行に移すことにした。

今現在の私は学生の分際であるにもかかわらずとても忙しい。大学での学業、資格の勉強、友人との交流、アルバイト、これらのことを分立することは難しく、私も完璧にはこなしていない。しかし、私はここまでの経緯を少しも後悔していない。それは私なりに毎日が充実していることに依っているのかもしれないし、どこか私の中には前々から忙しさを望むような願望があったのかもしれない。ところで、私は現在いわゆるゼミという大学の研究会に所属している。この研究会は



文献を読み、討論を通して勉強することが主な目的であるが、ソフトボールや合宿など勉強以外の方面でも積極的に活動し、親睦を深めることも重要な目的となっている。ゼミでは各人が自分の考えを自由に発言できる空気が存在しており、一般の大学の講義では触れることのできないものを得ることができる可能性を秘めている。これからはこのゼミも含めてもっと忙しくなるだろうということが私の楽しみのひとつでもある。

最後に、私は土佐高で学べたことを光栄に思う。気の合う多くの同級たちや尊敬できる多くの先輩方、これらは得難い一生の財産である。私はこれからも土佐高に関わって行けることを嬉しく思う。

★出版リーダー★

黒鉄ヒロシ (41回生)

「京都見廻組」

PHP研究所 本体一四五〇円 2003.12

「入門新選組」(画)

PHP研究所 本体一四〇〇円 2003.12

「雑学」先祖様の知恵袋」(監修)

宝島社 本体五七一円 2004.03

竹内靖雄 (29回生)

「あなたも「リーダー」になりなさい」

PHP研究所 本体一六〇〇円 2003.12

田島征三 (34回生)

「竜」

BL出版 本体一三〇〇円 2004.02

「いつまでもいっしょ」

金の星社 本体一二〇〇円 2004.03

野田正彰 (37回生)

「共感する力」

みずす書房 本体二六〇〇円 2004.01

坂東真砂子 (51回生)

「聖アントニオの舌」

角川書店 本体五一四円 2004.02

森岡浩 (55回生)

「名字の地図」分布とルーツがわかる」

日本実業出版社 本体一四〇〇円 2004.03

宮岡等 (49回生)

「よくわかるうつ病のすべて」早期発見から治療まで」

永井書店 本体五七〇〇円 2003.12

高遠裕子 (60回生)

「ジョン・P・コッターの企業変革ノート」

日経BP社 本体二二〇〇円 2003.12

「グリーンズパン」

ポプ・ウッドワード著

日本経済新聞社 本体九五二円 2004.05

鍋島高明 (30回生)

「相場師奇聞」兜町の魔術師天一坊からウォール街の帝王モルガンまで」

五台山書房 河出書房新社(発売) 本体二〇〇〇円 2003.12

尾池和夫 (34回生)

「急性心筋梗塞からの生還」

星雲社 本体一五〇〇円 2000.05

「俳景」洛中洛外・地球科学と俳句の風景」

星雲社(発売) 本体一五〇〇円 2002.12

「地震」(図解雑学・絵と文章でわかりやすい!-) ナツメ社 本体二二〇〇円 2001.12 杉山雄一(41回生) (編集) 「ファミマコキネティクス…演習による理解」 南山堂 本体六〇〇〇円 2003.08 「次世代ゲノム創業」 中山書店 本体五八八〇円 2003.04 森岡正博(52回生) 「無痛文明論」 トランスビュー 本体三八〇〇円 2003.10 「対論脳と生命」 筑摩書房 本体九〇〇円 2003.02 「意識通信」 筑摩書房 本体一一〇〇円 2002.07 「生命学は何ができるか」 勁草書房 本体三八〇〇円 2001.11 「脳死の人…生命学の視点から」 法蔵館 本体二四〇〇円 2000.07 高山宏(42回生) (著書) 「表象の芸術工学」 工作舎 本体二八〇〇円 2002.09 「エクスタシー」 松柏社 本体四五〇〇円 2002.06 「殺す・集める・読む…推理小説特殊講義」 東京創元社 本体一〇〇〇円 2002.01 「奇想天外・英文学講義」 講談社 本体一六〇〇円 2000.10 (訳書) 「定信お見通し」 タイモン・スクリーチ著 青土社 本体四二〇〇円 2003.09 「メディアの法則」 マーシャル・マクルーハン著他 NTT出版 本体四五〇〇円 2002.10 「トマス・ド・クインシー著作集³」 トマス・ド・クインシー著 国書刊行会 本体八六〇〇円 2002.03 「視線」 スティーヴン・カーン著 研究社出版 本体四三〇〇円 2000.10 ここからは雑誌に掲載されています 倉橋由美子(29回生) 「残酷にして甘美なる成熟への道のり」 婦人公論 89(5) 20-23 2004 黒鉄ヒロシ(41回生) 「対談 現在(いま)へつながる「新選組」の世界」 新刊展望 47(12) 7-18 2003	
合田佐和子(34回生) 「婦人公論井戸端会議 美術館へ行く!」 婦人公論 88(22) 154-159 2003 塩田潮(40回生) 「FOCUS政治 戦後3位の長期政権化に意欲 政治停滞招いた先例 小泉改革は進むか?」 週刊東洋経済 587 102-103 2004 「FOCUS政治 火ぶたを切った憲法改正問題 改憲の「呼応」する小泉・菅の異域同舟」 週刊東洋経済 587 110-111 2004 「FOCUS政治 長期政権めざす小泉氏の胸算用 一向進まぬ改革路線 04年前半が正念場」 週刊東洋経済 586 142-143 2003 「FOCUS政治 つまずきの後の政権運営 3人の前例に学ぶ 最終決着は来夏へ」 週刊東洋経済 586 128-129 2003 「FOCUS政治 小泉政権「終わりの始まり」 毒には毒で制す 郵政民営化の布陣」 週刊東洋経済 584 118-119 2003 「提言 郵政三事業の民営化に向かう」 INJIC 270 32-37 2003 「地方のリーダーが日本を変える(13) 清水聖義 群馬県太田市長「顧客満足度」を原点に独自改革を断行『英語教育特区』で日本人を国際化する」 ニューリーダー 17(2) 38-42 2004 「地方のリーダーが日本を変える(12) 麻生渡 福岡県知事」 グジラの福岡「目指す『経済知事』の挑戦 改革へよりパワフルな舵取り求める声も」 ニューリーダー 17(1) 62-66 2004 「地方のリーダーが日本を変える(10) 江島潔 下関市長」 「25万人のカスタマーに未来を提供する」 若き市民出身社長」 が新行政手法で挑戦」 ニューリーダー 16(11) 62-66 2003 「地方のリーダーが日本を変える(9) 橋本大二郎 高知県知事 嵐の3期目「間融資事件」の重すぎる教訓『改革派知事トップランナー』の再挑戦」 ニューリーダー 16(10) 46-50 2003 野田正彰(37回生) 「陳真…戦争と平和の旅路(2)」 世界 725 235-267 2004 「陳真…戦争と平和の旅路(1)」 世界 724 206-218 2004 「児童福祉全体があまりにも貧しすぎる… 社会制度と文化が虐待を生む」 論座 107 52-57 2004 「オウム真理教の研究… 教祖・信者・観客の相互関係」 研究紀要 17 63-85 2004 宮岡等(49回生) 「集中治療における精神的援助とは」	
eat nursing 16(12) 1219-1223 2003 岡村甫(32回生) 「新春座談会 これからの公共事業のあり方」 月刊建設 8(1) 3-24 2004 杉山雄一(41回生) 「トランスポーター研究に基づく医薬品開発」 バイオサイエンスとインダストリー 61(7) 455-460 2003 「鼎談 ポストゲノム時代の医療」 現代医療 35(7) 1427-1443 2003 「Pharmacogenetics」 現代医療 35(7) 1532-1540 2003 森岡正博(52回生) 「論苑 新しい自分の創造…『無痛文明』批判序説」 第三文明 529 30-33 2004 「無痛文明に負けるな! 身体の欲望」を「生命の欲望」に変えよ」 中央公論 119(1) 244-254 2004 高山宏(42回生) 「近代が載る奔放なテンプル・OEDへの感謝」 英語青年 149(1) 19-22 2003 「マニエリスム」 「あの人」としか言えないことの豊かさ(特集 幻想文学研究のキイワード—私のキイワード) 幻想文学 66 100-103 2003 「奇想天外『虞美人草』講義」 漱石研究 16 161-185 2003 「身内と胎内」 『失われた庭』の僕 総特集 矢川澄子・不滅の少女」 エリイカ 34(3臨増) 206-219 2002 「イギリス・ユーロ圏イギリスからはじめて 話しはドイツ、フランス、イタリアなどユーロ圏に及ぶ特集 世界の小説・最前線」 国文学 解釈と教材の研究 47(10) 97-111 2002 「天眞爛漫百貨店」 『ラッキー嬢ちゃんのあたらしい仕事』(特集 高野文子—マンガ表現の拡張) エリイカ 34(9) 226-235 2002 「69' 何てエロチック—ヤン・ロット追悼(特集:ヤン・ロットの仕事)」 英語青年 148(1) 4-7 2002 「メルヴィルからはじまる 徹底討議 甦えるメルヴィル、読み直すアメリカ(特集 アメリカ文学航海誌メルヴィルから始まる)」 エリイカ 34(5) 78-99 2002 「うつしてくるとひとまわり—絵本表象論・覚え(総特集 絵本の世界—絵本論)」 エリイカ 34(3臨増) 178-191 2002	